

公益社団法人 日本天文学会 代議員総会議事録

日時： 2022年6月5日（日）13時00分～15時20分

場所： 日本天文学会事務所（オンライン開催）

出席代議員：（須藤）、（本間）、相川、奥村、大須賀、太田、浅井、大朝、吉田、米徳、藤沢、江草、生田、福江、赤堀、柏川、細川、今井、田中、野村、山崎（典子）、谷口、河野、土居、（小林）、井岡、林、石川、藤井、百瀬、高橋、井上、富永、長尾、當真、横山、川端、稲見（以上41名（須藤、本間、小林の3名は遅刻しての出席）、委任状2名）

欠席代議員（委任状有）：大向、山崎（了）

欠席代議員（委任状無）：津村、犬塚、富田

長瀧 PASJ 理事（14時50分から）、花岡監事、山本会長、久保田副会長、町田庶務理事、鈴木庶務理事、酒向会計理事、鹿野会計理事、佐藤事務長、黒岩・田口谷事務長補佐が出席した。太田副会長、奥村監事は代議員を兼任している。

I. 確認事項など

議事に先立ち、出席代議員が36名、委任状が2通で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。また定款に基づき、以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議長：山本 智

署名人：山本 智

I-1. 代議員に関する説明（山本）

第7期代議員が出席する最初の代議員総会であることから、代議員の役割と代議員総会の概要が説明された。

I-2. 代議員総会議事運営の申し合わせ事項について（山本、資料2）

2022年3月の代議員総会で承認された「代議員総会議事運営の申し合わせ」の内容の確認を行った。

II. 議題

日本天文学会の2021年度事業・会計に関して山本会長が総括し、町田庶務理事に事業報告の説明、酒向会計理事に決算報告の説明をそれぞれ指示した。また、続く各議題に関しても山本会長より提案し、各担当理事に詳細説明を指示した。

II-1. 日本天文学会2021年度事業報告書の承認（資料5、町田）

2021年度の事業報告が説明され、一部文言の修正の上、賛成多数で承認された。

II-2. 日本天文学会2021年度決算書の承認（資料6、酒向）

2021年度の決算書が説明された。なお2021年度は、主にCOVID-19の影響で公益目的事業が黒字となり公益社団法人として適正でない状況だが、これは単年度のことでありCOVID-19の影響が緩和されると予想される2022年度以降は解消される見込みであることが説明された。

この件は、公認会計士とも密接に相談をしている。決算書は賛成多数で承認された。

II-3. 研究奨励賞における自薦の取り扱いについて（資料7、細川）

研究奨励賞の公募文面に「自薦も可」を明記することが提案された。現在の内規では自薦が禁止されていない一方で自薦可が広く認識されておらず、今後自薦の応募があった場合に潜在的な候補者に不公平が生じる可能性があるための措置であることが説明された。代議員から、提出される電子ファイルの容量と参考論文をリンクのみとした場合のアクセス権に関連する問題点を委員会内で検討して欲しいとの指摘があった。また今回の提案に至る背景として、これまでの推薦状況に関する質問が出され、過去10年は自薦の応募は無かったものの、推薦者を見付けることに困難を感じた応募者がいた状況が確認されていることが回答された。提案は賛成多数で承認された。

II-4. PASJ購読契約での紙版提供停止と今後の紙版の扱いについて（資料8、長瀧 => 代理:町田）
今後OUP(出版社)によるPASJ紙版の発行はせず、電子版のみの契約とすることが提案された。なお紙版は、学会が必要部数を印刷し、現在紙版を購読している機関、個人、および、紙版を納本する国会図書館に提供し、購読者の不利益にならないよう配慮する予定である。これに対して代議員から、既存の紙版購読者への電子版移行を促し、電子版のみの提供への移行期間を定めることを検討すべきとの意見があり、別の代議員からは紙版廃止に対する反対意見も出された。また、紙版廃止はオープンアクセス化と関連するか質問が出されたが、関連は無いと回答があった。関連して、MNRASの紙版廃止は、英国ではオープンアクセス誌に掲載された論文のみ英連邦予算申請の審査対象となる事に関連しているとの情報共有がなされた。提案は賛成多数で承認された。

III. 報告

III-1. 日本天文学会 2021年度監査報告（資料4、花岡）

事前に提出された2021年度の事業報告書および財務諸表に基づき、2022年5月13日に監査が開催された。各種事業の運営と予算の執行に基づき、事業報告書および財務諸表が適正に作成されていることを確認したことが報告された。また、昨年度の監査であった意見と提言について、現理事会に引き継がれ適切に対応していることも報告された。

III-2. 「国内研修支援金申請書」の変更について（資料9、町田）

5月21日に開催された理事会において、国内研修支援金の電子申請を可能とするため申請書の変更を行うことが提案され、承認されたことが報告された。

III-3. 2021年度早川基金報告（資料10、町田）

全体で9件の申請数に対して5件採択されたことが報告された。代議員より、現在採択者の年齢が記載されているが不要ではないかとの指摘があり、実務理事会で検討することとなった。また、今後応募資格に年齢制限を付けるのではなく、身分や学位取得からの年限で制限を付けた方が良いのではないかとの指摘があり、早川基金選考委員会で検討することとなった。

III-4. 日本学術会議 天文学・宇宙物理学分科会報告・IAU分科会 報告（浅井）

これらの組織の概要の説明の後に、日本学術会議 天文学・宇宙物理学分科会の直近の主な活動内容として、(i)3月5日に日本天文学会春季年会に合わせて、学会会員への報告会を行ったこと、(ii)6月20日に次の分科会が開催される、(iii)従来のマスタープランが廃止されたが、大型中型将来計画についての取りまとめは分科会として引き続き継続すること、が説明された。

III-5. 今後の年会について（町田）

2022年秋季(新潟大学)、2023年春季(立教大学)、2023年秋季(名古屋大学)まで決定している。2022年秋季についてはハイブリッド開催の予定であるが、最終決定は2022年7月の予定である。上記以降の年会開催地は未定なので、積極的な応募をお願いしたい。

III-6. 「現代の天文学」韓国語版に関して（山本）

全17巻のうち1-9巻まで韓国語版が既に出版されているが、適切な翻訳者がいないため10巻以降は刊行されないことが報告された。

III-7. PASJからの報告（代理：町田）

(i)投稿の手引き第2版改訂版が公開されたこと、(ii)2023年の機関購読料とオープンアクセス掲載料、(iii)掲載システムの更新、について報告された。

III-8. 各種表彰について

日本天文学会各種の表彰について応募資格を年齢で制限しているものに関して、学位取得からの経過年数など他の基準に変更すべきではないかと意見があった。現在は各賞毎の対応となっているので、日本天文学会で統一的な見解をまとめる事を要望され、包括的に検討を進めることとなった。

III-9. 配布資料等での表記について

新型コロナウイルスについての表記を、単に「コロナ」と略するのは日本天文学会においては天体コロナとの混合の観点から問題であるとの指摘があった。「COVID-19」や「新型コロナウイルス感染症」と訂正して使用することが確認された。

III-10. 年会ハイブリッド化タスクフォースからの報告（太田）

ハイブリッドの様々な形態について検討されていることが報告された。ハイブリッドの場合のオンラインによる参加の条件について、代議員から意見を伺いたいと申し入れがあった。代議員からは、次のような意見が出された。(i)さらにもう一步進めてVRも活用できる。(ii)元の要望である育児等のみ限らず、大学の用務や観測との日程のバッティングでも参加を認めて良い。(iii)オンライン聴講が可能となるのは、学部生などの若手にとって非常に良い。(iv)オンライン参加を推進する観点として、環境問題(CO2排出をとまなう移動の抑制)もある。(v)オンライン推進の結果、財源としての旅費不要論が出てくる危惧がある。

またタスクフォースの役割として、今後の年会実施方式の決定まで含まれるのかという質問が出され、様々な実施方式の整理までが役割であると回答された。

[資料リスト]

資料1 代議員総会出欠席表

資料2 代議員総会議事運営の申し合わせ

資料3 公益社団法人日本天文学会代議員総会議事録案

資料4 公益社団法人日本天文学会 2021年度 監査報告書

資料5 公益社団法人日本天文学会 2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)事業計画書

資料6 公益社団法人日本天文学会 2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)予算計画書

資料7 研究奨励賞における自薦の取り扱いについて

資料8 PASJ編集委員会からの議題と報告

資料9 「国内研修支援金申請書」の変更について

資料10 早川幸男基金採択者（第113回～第116回）

2022年6月5日

議長・署名人：山本 智 印